

レポート：史跡「信楽寺（しんぎょうじ）」跡について

東北キリシタン研究会

仙台白百合女子大学カトリック研究所 川上直哉

1. 「キリシタンマーク」

キリシタンの研究をしていると、「キリシタンマーク」と呼ばれるものに出会います。全国的にみられるもので、墓石に刻まれています。その意味について、確たる定説はないのですが、おしなべて「キリシタンの伝承」と一緒に語られるものとなっています。私たちがキリシタンの伝承をたどるとき、この「マーク」は、一つの手がかりとなります。

（右写真：

墓石の上部に「ω」のような
マークがある）

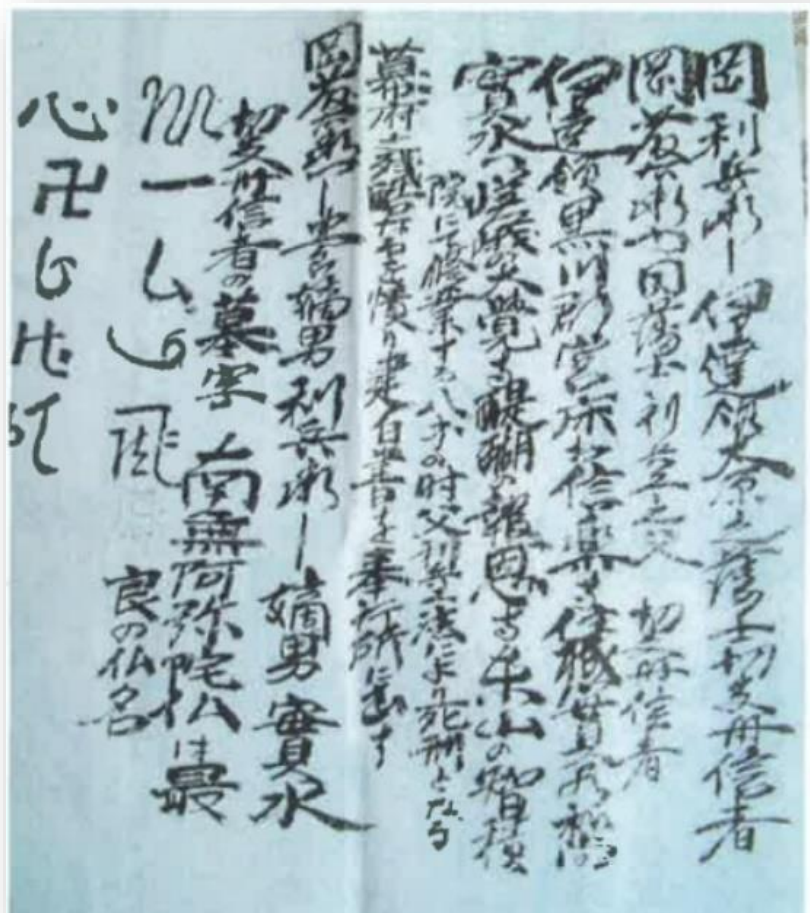


2. 「信楽寺」古文書

この「キリシタンマーク」を説明する古文書があります。仙台駅から自動車で30分ほど北上した宮城県大和町宮床「信楽寺」古文書です。

信楽寺は室町時代に天台宗寺院として建てられ、後に真言宗に改宗し、江戸時代には郡内有数の寺院となりましたが、廃仏毀釈によって焼却されてしまいました。

戦後、登米市東和町の郷土史家・佐藤直喜さんが、岩手県一関市大東町大原に調査に行ったとき、「狼河原(現在の登米市東和町米川)に修行に行った先祖が、ここ大東に製鉄の技術を伝えた」という言い伝えを聴き取り、そして一つの古文書の写真を見せてもらったとのこと。その写真は、右の通りです。その内容は、その文脈を補って読み取るなら、概略、以下の通りでした。



宮床の信楽寺住職 實水和尚が、まだ寺で修行中の8歳の時のこと。實水の実父である大原の岡利兵衛が、キリシタンとして死刑に処せられた。その残虐な刑執行への憤りを覚え、ここに嘆願書を幕府宛、提出する。キリシタンの墓字は「ω」「一」・・・である。「南無阿弥陀仏」は最良の仏名である。よろしく供養されたい。

3. 現在の「信楽寺」跡

2023年6月6日、私は、宮城県黒川郡大和町宮床字倉松 94番地にある、大和町指定史跡「信楽寺跡」を訪問しました。駐車場も整備されていました。その駐車場にあった地図は、その位置関係をよく示しています。



その入口は、「東北自然歩道」の入り口の脇にありました。そこを入ると、橋がかけられてあり、奥に案内看板がありました。



境内跡の通路をまっすぐ進むと上り口があり、階段を上ると、終点にお堂がありました。
入り口の看板によるとこのお堂は「観音堂」の復元である様子です。



お堂の中を見ま
すと、驚いたことに、
それは、「マリア観
音」あるいは「子安
観音」であるように
見えました（格子窓
の外からですから、
はっきりとは分か
らなかったのですが）。

以上、「信楽寺」の
報告をいたしました。

